



分かりやすくて的確な説明で、スタッフからの信頼が厚い岩切医師



Smiling faces of miyakonojo

## 「医療の<sup>とりで</sup>砦を守り続ける」

都城市郡医師会病院  
岩切 弘直 副院長

### 紆余<sup>うよ</sup>曲折を経て医師の道へ

救急医療や小児医療などの分野で「急性期を担う中核的医療施設」と位置付けられる都城市郡医師会病院。同院で副院長として全体を総括しながら、循環器内科部長やICU（集中治療室）室長などを務めるのが、岩切弘直医師です。

宮崎市で生まれ綾町で育った岩切医師は、宮崎市内の高校に進学後、コンピュータサイエンスへの興味などから、いったんは県外の国立大学の工学部に入學します。しかし、興味の対象は次第に生命や生物科学へ。さらに、医学部に通う先輩の後押しもあり一念発起。猛勉強の末に宮崎医科大学医学部（現宮崎大学医学部）に入學しました。紆余曲折を経ながらも、さまざまな経験を積んだ岩切医師は、自らの強い意志で医師への道を歩み始めました。

※急性期…症状が急に現れる時期や病気になる  
り始めの時期

### 人との出会いの地、都城

医学部時代、臨床実習で患者さんとの触れ合いにやりがいを感じ、急性期疾患の治療を志すようになった岩切医師。卒業後は、大学病院で2

年間診療の基礎を学び、急性期医療の最前線である都城市郡医師会病院に内科医として赴任しました。

「都城では、人との出会いに恵まれた」と岩切医師は振り返ります。当時のICU室長の指導の下、集中治療室で高度医療を実践していた医療スタッフのひたむきな姿勢。そして、医療は医師だけの力では成り立たないことを強く実感した、看護師や放射線技師、検査技師などの力強いサポート。都市部の病院に負けない志高い医療に触れながら、岩切医師は充実した時を過ごしました。その後、県内外の病院や大学病院で研鑽<sup>けん</sup>を積み、縁あって15年ぶりに同院に赴任。医療スタッフは大部分が入れ替わっていましたが、病院スタッフの医療の質はさらに高まっています。

現在、岩切医師は臨床の現場で多忙を極める中、スタッフの職場環境の整備や研修医指導などにも尽力するなど、地域医療の支え手として邁進<sup>まいしん</sup>する日々を送っています。岩切医師は「医師として前向きな姿勢を伝えてくれたのが都城。かけがえのない仲間たちと、この地域の医療を守り続けたい」と力を込めます。

### コロナ禍のトンネル、出口は必ずやってくる

本年1月、新型コロナウイルスのクラスターが発生した都城市郡医師会病院。岩切医師をはじめスタッフらは、疲労と心労で心が折れそうになりながら早期の封じ込めに全力を尽くしました。この間「市民の皆さんからの多くの励ましの言葉や支援が、精神的な支えになった」と語る岩切医師。一方で「SNSなどで言葉の攻撃を受けたり、不当に疎外されたりしたスタッフがいることを知ってほしい」と警鐘を鳴らします。このようなコロナ差別に対して、岩切医師は「未知の存在に対する恐怖は人間の本能。恐怖から自らを守るため、攻撃的にもなる。一方で、感染症の知識を得ることで、恐怖や不安を克服できる。そして、身体的苦痛と精神的苦痛の両方を強いる現状を変えていく必要がある」と訴えます。最後に、市民の皆さんにも次のようなメッセージが送られました。「医療の砦は私たちが守る。皆さんは、正しい知識で感染予防を行い、正しい知識で行動して欲しい。ワクチン接種でトンネルの出口は必ずやってくる」。岩切医師の言葉が力強く響きます。

かけがえのない仲間たちと、  
この地域の医療を守り続けたい

Smiling faces of miyakonojo

# 人の風景

プロフィール

岩切 弘直 医師

一般社団法人 都城市北諸県医師会 都城市郡医師会病院

副院長(総括)、都城夜間急病センター副所長、循環器内科部長、ICU室長  
臨床工学室室長、医療連携科長、感染管理科長